

フアイアーエムブルム
風花雪月 闇うご滅殺
√ ギムレーを添えて

モンテベロ侯爵

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ファイアーエムブレム風花雪月のプレイ動画風小説です。

邪竜復活の章 完結しました。

目次

新DLC【邪竜復活の章】 前編

1

新DLC【邪竜復活の章】 中編

11

新DLC【邪竜復活の章】 後編 その1

30

新DLC【邪竜復活の章】 後編 その2

39

新DLC【邪竜復活の章】 後編 その3

52

新DLC【邪竜復活の章】 前編

ファイアーエムブレム風花雪月 新DLC【邪竜復活の章】

ハイ始まりました〜ファイアーエムブレム風花雪月プレイ動画、お相手を務めます。
〇〇です。

今回やらかしますのは、新DLC【邪竜復活の章】通称、闇うご滅殺√です。

ハイ、もう題名から解るようにファイアーエムブレム風花雪月に、ギムレーを打つ込むという狂気に満ちたDLCになっております。

本作品を、ご観覧するに当たって、このDLCは闇うご滅殺√と称されるほどに、闇に蠢く者ことアガルタの民に対して当たりが強くなっております。

全国に居るであろう、闇うごファンの方々は、一つご注意ください。 m () m
さてOPが始まりました。

では今回プレイする。【邪竜復活の章】ですが、所謂「カルマ√」というヤツです。基

本救いがありません。

流石、道徳0点のシナリオを作るスタッフ連中です。ここは素直に称賛罵声を浴びせましょう。

まあこのDLCが配信された経緯は、闇うご連中にヘイトが溜まつた。コレに尽きるんですよ。

皆様もプレイをしてお判りのように、「あれ？ 物語の黒幕にしては、なんかショボくね？」

「紅花√だと、この髭殺せねーのかよ！」「蒼月√、シャンバラ破壊してないし…後々やばいことになるんじゃない？」

「俺のエルを……リシテアを……」「もつと殺らせろや！ オラアアン！」

これらの声を汲み取った。スタッフが、生み出した今作の【邪竜復活の章】……なに考えてんねん……

バケモンにはバケモンをぶつけんだよの精神で、闇うごに対してギムレーとか……オーバーキルが過ぎるだろ……

進めていく内に、解りますが、道徳0点のスタッフが御作りになられた、カルマ√なので、本当に救いがありませんでした。orz

ハイ、OPが終わり、キャラメイクの画面ですね。

まあここは、安定のベレス先生で行きますかね。ちなみにギムレーは、選んだ性別の逆で来るので、薔薇とか百合とか出来ないんですよね（泣き）

さて謎の少女ことソテイス様からのご質問ですね。

「ほう……知らぬ顔のようじゃのう。いったい何者じゃ？」

ハイ、ここで三択が出るのですが、本作は「邪竜復活の章」のDLCを入れているので、選択肢が変わります。

【人間】 【幽霊】 【邪竜の信徒】

ここで、「邪竜の信徒」を選びましょう。

「なっ！ おぬし！ ふざけるのも大概にせい！」

叱られましたね……まあ問題しかありませんが問題ありません（混乱）

ここで、もう一度【邪竜の信徒】を選びましょう。

「おぬし……もうよい！ わしは知らぬ！」

ハイ、これでフラグが立ちましたね。これが第一のフラグです。本作のDLCを入れたけど

【邪竜復活の章】をプレイしないときは、素直に【人間】を選びましょう。

さてソテイス様の機嫌を無事損ねて、我らがベレス先生のお目覚めですね。

「おい、そろそろ起きろ」

キヤー！ ジェラルドさーんの登場です。ベレス先生は夢で、幼女に怒られた話をします。

ジェラルドさんからすれば、「なに言ってるんだコイツ」と言わんばかりに、話を切り上げます（ああ…無情）

おっ！ 皆様お待ちかねの三級長の登場ですね。なんでも野営中に盗賊の襲撃受けたいですよ（棒）

「この村を見捨てるわけにはいかねえ……おい、行くぞ。ベレス、ロビン」

ん？ ロビン？ ルフレじゃないの？ と思いの皆様、今作ではロビンらしいですよ。なんでかは知りませんが（ifで覚醒の三人組も名前が変わったから ま、多少はね？）

まあ名前が違ってても、中身はギムレーだから、何の問題もありませんね（混乱）

さてさて我らが主である。ギムレー様のお姿ですが……おっほ！ メガネ男子！

これはイイですね〜ポイント高いですよ〜

「いくよ！ ベレス、共に戦局を変えよう！」

なんだ！ この爽やかなギムレーは！（驚愕）

え〜今作のギムレー様は、まだ覚醒してません。覚醒しなければ、ただの爽やかな兄ちゃんですわ……

覚醒の手順としては、星辰の節に行われる。女神の塔イベントまでに支援値をAにしなければなりませんのです。

……うん、割りと結構時間が無いのですよ。しかも支援値は三段階ではなく、四段階ときたものだ。

なので食事やらお茶会をフルに使う必要がありますね。(ギムレーをお茶会に誘うつてかなりシユールやな)

さて雑談はこれくらいにして、戦闘ですね。あつ！ 今回の動画は、縛りプレイとかは無しなので、難易度はハードのカジュアルです。

では問題のギムレー様ことロビンのスキルですが……

【ギムレーの紋章】 攻撃魔法使用時、確率50%で威力+15

【戦術指南】 自分と自分に隣接する味方が、命中・回避・必殺確率+15

はえ、く、すつごい……イヤイヤぶつ壊れすぎだろ常識的に考えて……

まあええわ！ ちゃつちやと戦闘を進めよう(達観)

「甘い！」「この程度！」エーデルガルトが躲す

「遅いな！」「見えてる」デイミトリも躲す躲す

「邪魔するなつて！」「恨まないでくれよ」クロードは必殺バシバシ

あーうん、知ってた(白目) いや、スキル【戦術指南】は本当に酷いですね！ 盗賊

の皆様が哀れになってきましたよ（棒）

さて戦闘も終り、イベントムービーの時間ですね。おおっ！ コスタスさんがエーデルガルトに向かった！ そして……

ハイ、ソテイス様の説教部屋にご案内です（予定調和）

ここで、ベレス先生は時を戻す能力。「天刻の拍動」ゲットです。

ソテイス様に粗方説教された後に、「あの者には気を付けよ」と意味深な助言をいただきます。

いったい誰ムレーに気を付ければいいんだ……（すつとぼけ）

さて時を戻した。ベレス先生は、無事にエーデルガルトを助けましたね。（うーん、このメス顔）

「セイロス騎士団、ただ今参った！」

みんなのアイドル、アロイスさんのご登場ですね。

クリア後の会話が始まりましたね。アロイスさんのハイテンションぶりに思わずベレス先生も

「逃げ遅れた盗賊の一味だ」と自白してしまう、微笑ましい場面もあり、和やかな雰囲気

におっ！ 三級長もやってきて、恒例の何処の国が一番なんだ？ マウント合戦が始ま

りましたね。

まあここは適当に答えても良いでしょう。どうせ結末は変わらんです。(不穩)

今回は、黒鷲学級を担当するので、エーデルガルトをヨイシヨするという意味で、ア
ドラスティア帝国を選びますね。

さてまた三択が現れましたね。

エーデルガルトは、常にこちらを値踏みするような目で見ると(ヒトメボレダヨ)

デイミトリは、明るさの中にどこか陰りのようなものを感じる気がする(ゴリラハメ
ンタルガネ……)

クロードは、人好きしそうな笑顔が印象的だが……目が笑っていない気がする(ニテ
ツシタエイギョウカナ?)

うーん、この曲者たちよ。ベレス先生も、これにはお疲れさんですね。とそこに颯爽
とメガネ男子が

「……ベレス、疲れたなら疲れたと言っていいんだよ。僕がちゃんと支えるからさ」
ああ、くすくすごい彼氏面くでもイケメンだから許せちゃう(脳死)

本当にこのスタッフの連中は、目立たない所にちよつとしたスパイスを仕込むから質
が悪い

ネタバレは控えますが、ロビンが細やかな気遣いや、優しさを見せて最後にドン!

ですからね。

はあくほんまにアカンてアレは、道德0点どころか、マイナス点ですよ……（愚痴）
まあ愚痴は程々にして先進めましょう。ムービーのお時間ですよつと

んく何やらOPで見た人が、こちらを見下しているゾ

ハイ、この御方は、セイロス教の大司教を務める。レア様（17歳）です♪ おいおい

ではサクツと、レア様にご挨拶しましょうねく

時は流れて次の日

【悲報】レア様、傭兵を教師として抜擢してしまう……

さて気が狂った人事が行われた結果、ベレス先生は名実ともに師になりました。（パ
ンパカパーン）

それでは、生徒たちに顔？ぎをするという意味で、全員に挨拶をするとしましょうか
ね。

なんで、挨拶とかするの？ 無駄では？ と思われるかもしれませんが、スパイスで

すよスパイス♪

ムービーが流れましたねーいやーみんな青春してますねーわたしもこんな青春送ってたかったな〜(棒)

ではレア様に、黒鷲学級を担当する事を伝えましょうね〜

「彼らを真摯に導いてくれることを願います」

はえ〜レア様、まるで聖母みたい……素性の知れない傭兵を名門校の教師にしちゃっても許せちゃいますネ！

「近日、現時点での生徒たちの実力を測るため学級対抗の模擬戦を行う予定だ」

さて今節の課題は、三学級ごちゃ混ぜの模擬戦らしですな。

ちなみに、我らの主ことギムレー様ですが、E P . 3からスカウトが可能になっております。

スカウト条件は無いので(シルヴァンかな?) 出来るようになったら、即スカウトしましょう。

その間に料理など、食事などで少しでも、カルマ値支援値を稼ぎましょう。マジで余裕が無いので。

勝負はE P . 4からのお茶会解禁ですね。是非perfectを狙いましょう。そしてギムレー様の照れ顔をネットリ鑑賞しましょうね。

ハイ、お時間もよろしいので、本日はここまでに致しましょう。お疲れさまでした。

新DLC【邪竜復活の章】 中編

邪竜復活

ハイ始まりました〜ファイアーエムブレム風花雪月プレイ動画、お相手を務めます。
○○です。

早速ですが、「邪竜復活の章」をプレイしていきましょう。前回何処まで行きましたかね〜？

あくそくだ、そくだ、ルミール村で闘うごと初対決でしたね。

いや〜相変わらず、ストレスがたまる連中ですよ〜？ こいつらが出るたび、死ねばいいのに……と思ってしまうんですよ〜まあぶち殺すんですけどネ☆シ

「今節は舞踏会が予定されています。生徒たちも楽しみに行っていることでしょう」
舞踏会ですよっ！ 舞踏会っつ！ 外界の情勢が、きな臭くなっているのに
ガルグIIマク大修道院は平和でありますな〜

まあでも、使われていない礼拝堂に、何者かが侵入した痕跡があるそうですよ。
それで今回の課題は、礼拝堂の警戒及び侵入者の調査だそうよ。

さらに助っ人で、騎士団の実力者が助っ人にくるような、誰だろうネ？（棒）

「騎士団の実力者ジェラルト・アイスナー、ただ今、参上しました」

まあ実力者と言えば、ジェラルドさんだよね〜なんでもレア様が、ゆつくりと親子の時間を作れよとの事、いや〜レア様の優しさが、五臓六腑に染み渡りますな〜

さてさて、早速散策に移りますかね。掲示板でクエストの確認をしましてと……
ふむふむ。白鷲杯に参加しようか……ふーん、誰を出しますかね？

わたし、毎回プレイ時は、フェリクス一択なんですけど……

今回のプレイは、他の学級から誰一人スカウトをしていないので、うーん、今回はドロテアでいいでしょう。

おっと！ 忘れないうちに門番さんから、女神の塔の話聞かないとね。ここで選ぶのは、勿論ロビンですね。

頑張りましたよ？ わたし、料理にしろ戦闘、食事にお茶会……常に *perfect* を出して、そこからプレゼント……いやー大変でしたねー

支援値Cのロビンと料理を作る話に、支援値BとB+の欠落した記憶探しに……そしてそれらを乗り越えた先の支援値A……

死がふたりを分かつまで……これもうプロポーズですよ……エモいわ〜
さてと、これですべての条件がそろいましたね。もう後戻りできませんよ？

じゃあ門番さん、ロビン一丁！

「……ところで、皆に提案があるの。5年後の今日、また大修道院に集まらない？」

舞踏会の前夜です。ね、学級の皆さんが、何やら5年後に同窓会を行おうという、話をしていますね。

物知りなヒューベルト氏曰く、5年後はガルグーマク大修道院の千年祭の年だそうで、随分派手に行うとの事

まあ5年後があるといいけどな！（不穩）

ハイ、恒例のムービーのお時間ですね。エガちゃんやデイミトリが、軽やかに踊ってますけど、両者共に背中合わせで、視線が交わらないんですよ。いやー意味深だなく（棒）

そして、手持無沙汰のベレス師をクロードが踊りに誘ってますね。まあこういうのは、一人が突破口を開かないと、誘いづらいのですよ。

ほかの生徒たちは、クロードナイス！ て思ったのでしょね。この後のソテイス様との会話で、揉みくちやにされたらしいので、ベレス師の気がうかがえますネ。

それでは女神の塔イベントを進めましょうね〜

「やあ、どうしたんだい？ こんな所で、まだ舞踏会の最中じゃないのかい？」

【疲れたので休憩】

【お腹が空いたので休憩】〈へ

「あはは！ 本当に君らしいね。どう？ 乾燥熊肉だけど食べるかい？」

【いただきます】〈へ

【熊肉はちよつと……】

「はい召し上がれ」

ギムレーの外の人て熊肉が好きらしいですよ。かなりマニアックですよ。

【ロビンはどうして此処に？】

「僕？ ちよつと考えたいことがあってね……今までと、そしてこれからを……」

【今まで？ これから？】

「……そうだね。どこから話そうか……君は僕と出会った時を覚えているかい？」

【森で倒れていた】

【森で寝ていた】〈へ

「寝っ!? いやいや……別に寝ていたわけでは……」

「んんっ！ は、話を戻すよ？」

話の腰を積極的に折っていくスタイル

「森で倒れていた僕を、君とジェラルドさんは何も言わずに傭兵団に迎えてくれた。それには感謝しているよ、だけど……」

【だけど？】

「なにかの罠だとかは、思わなかったの？ だって僕は、記憶も無い、自分の身分を証明する物すら持っていない、言わば不審者だ」

【……】

「……普通は記憶喪失なんて、嘘だと思って、多少なりとも警戒するはずなのに……どうして僕を受け入れたんだい？」

【寄る辺の無い目をしていたから】

「……僕が？ ……だから放って置けなかった？ ……相変わらず優しいね。でも、正直危うさも感じる。二人が持つその美德に、付け入る者がいるのではないか……」

「もしそんなことが起きたら……僕は耐えられそうにない……」

【自分達は大丈夫、ロビンがいるから】

「……ずるい言葉だね。そう言われたら、傭兵団の軍師として支えるしかないじゃないか」

【ジェラルドには軍師を、自分には……】

「あの日に誓った。死がふたりを分かつまで……でも本当にいいのかい？ 僕の記憶は恐らくはもう戻らない……そんな僕でも……」

【そんなロビンだから】

「……ありがとう。本当に嬉しいよ……そうだ、まだ舞踏会の方は……うん、音楽が聞こえるから、まだ終わってないね」

【?】

「僕と一曲、踊ってくれませんか？」

【喜んで】

「これからは、君と沢山の思い出を作っていきたい、そう……死がふたりを分かつまで共に……」

……これもうエンディングでいいんじゃないかな？ いやだってスチル回収できましたよ？

ほら【月夜のもとに踊る男女】の絵を回収したんですから、この後はフレスベルグの少女が流れるんですよ？

……流れるのは、フレスベルグの少女ではなく、ナバテアの歌？ うーん、この

「珍しいな、二人してどうした？」

女神の塔イベント終了後に、二人してジェラルドに挨拶ですよ。これは確実に交際の許可を貰いに来た感じですね。

ええぞ！ ええぞ！ 二人は将来を誓い合ったんだ。希望の未来へレディ・ゴーツ!!

「ジェラルドさん……少しお話が……」

オラー！ いけ！ ロビン！ お前の【戦術指南】は何の為にあるんだ？ この為にあるんだぞ！

「あーうん、その……」

【実は結婚することになった】

ベレス師が言うんかい！ あーほら、ロビンもジェラルドさんもフリーズしてますやん

これはロビンの【戦術指南】の効果の一つ必殺確率+15が刺さりましたね。間違い
ない

ベレス師の爆弾発言で、フリーズしていたジェラルドさんも再起動してきましたね。

なんでも薄々こんな時が、来るのではないかと思つてたとの事（娘の成長日記付けるぐらいの子煩悩。パパだもんネ）

んでジェラルドさんから、ベレス師に指輪のプレゼント。いつか娘に、大切な人ができたら渡そうとしてたのこと

ジェラルドさんの「娘を頼む」の一言で、やつとこさロビンのフリーズも解けて、三人は和やかな空気に

ヨシ！ これが真のエンディングだな？ アイスマー家に婿がきて三人は幸せに暮らしました。　　く完く

「失礼しますっ！ 団長！ 大変です！ 礼拝堂の辺りに、魔獣の群れが現れたと知らせが……！」

はあ……（クソデカため息）空気読も？ オツケーオツケー状況は？ ふむふむ。

なんでも複数人の生徒が、ラリった状態で礼拝堂に向かった後に、魔物が湧いてきた

と？

うん、これは確実にアレですね。生徒が魔物に変化したみたいな感じですかね。気が進みませんが……課題戦闘に赴きますか……

ハイ、戦闘マップです。えーと、うん魔物が、生徒を襲っているシチュエーションですね。

逃げ遅れた生徒が三人いますので、傷を負ったらリブローなりで、回復させていきましょう。

普通にやったら魔物五体程度、さくつとやれるのでジェラルドさんの敗走だけに気を付けましょう。

ハイ、戦闘終了です。ここからムービーのお時間ですね。ここからはちよつと喋るの止めますね。

「待つてくださあい！」

逃げ遅れた生徒だろうか？ こちらに向かって走ってくる。

自分が担任する黒鷲学級のモニカだ。ベレスはその姿を確認すると「何をしている！ 早くこっちへ！」

モニカを保護するため、自分の傍に呼び寄せるベレス。それは教師として、正しい行動であった。

「はーい、でもお〜」

だが世の常として、正しい行動が良い結果を必ずしも限らない……

「ごめんなさあい、せ・ん・せ・い」

モニカの凶刃が、ベレスの背中に突き刺さる……その光景を見たジェラルドが憤怒の表情で、モニカに突撃する。

「貴様ぁー！！」

「こわ〜いケモノさんて、すぐ感情的になっちゃうのね。で・も♪」

そう言うとジェラルドの足元に魔法陣が現れる。

「がああああつ!!」

魔法陣の効果か、ジェラルドはもがき苦しむ。

「クツ！ ジェラルドさん！ トロン!!」

ロビンはモニカに向けて、雷撃の魔法を打ち込むも、そこに……

「ふっ……甘い、甘い、小僧……」

「お前は……ソロン！」

そこに現れたのは、ルミール村で暴虐の限りを尽くした。ソロンであった。

二対一……さらに倒れたベレスに、魔法陣に囚われたジェラルド……状況は極めて厳しい

どうする……？ どちらを優先する……？ ロビンの脳内で思考が錯綜する。

とそこへ背後から、膨大な魔力を感じたロビンが振り向くと

「どうやら無事に、獣の眷属を捕らえたようだな」

「タレス様」

タレスと呼ばれたものは、ロビンを一瞥し、ジェラルドを指さし一方的に告げる。

「この者を返して欲しければ、一人で封じられた森に来ることだ。獣よ」

そう言いと三人とジェラルドは姿を消す。

「待て！」

「ジェラルドさん……ッ！ ベレス！」

ロビンはベレスのもとに駆け寄り、脈拍を確認する。

（大丈夫、まだ動いてる）

背中傷の確認し、ライブをかける。だがこれは自分では荷が重すぎる。

せめて回復魔法に秀でた者を早急に連れてくるべきだ。ロビンに焦りが生まれる。

「何処なの？ 師、居たら返事をして！」

エーデルガルトの声が聞こえる。周辺の警護に当たっていた生徒が、異変に気付いて戻ってきたのだ。

「こつちだ！ エーデルガルト、ベレスが刺されたんだ！」

「早くリンハルトか、マヌエラ先生を呼んで欲しい！ 僕の回復魔法では持ちそうに無い！」

ロビンの言葉に、エーデルガルトの顔面は蒼白となるも、事態を冷静に対処していく

「リンハルト！ フレン！ 急いで！」

「カスパル！ 貴方はマヌエラ先生を急いで呼んできて！」

「ヒューベルト達は周囲を警戒！」

雨が降り始めた。それは自分たちの敗北を慰める慈雨か？ それとも誰かの涙雨か

……

ハイ、ムービーとイベントが終了しました。えく我らが主人公のベレス師は、負傷で次節から使用不可です。

つまりこれからは、ロビンの一人旅です。一対十五とか一対三十のステージが平気で来るわけですが……

でもご安心ください！ 次節にロビンが覚醒します！ お時間もよろしいのですが

……

折角ですし、覚醒イベントだけやつときますね。

白雲の章 守護の節 邪竜復活

おおっ!? タイトルが女神の行方から、邪竜復活に変わってますね。ついにここまで来たんだなくでは闇うごを殺しに逝きましようね。闇うごは滅殺よ。

とその前にちよつと状況説明ですね。え、我がベレス師は怪我の影響で……髪が緑になりました。

覚醒しとるやないかい！ なに雑に覚醒してるの？ ねえ!? あ、レア様もこんな状況だけどイ顔してますわ！

まあこの人の優先順位で、お母様、その他だし、しゃーなしか……

場面変わって、何やら炎帝とモニカ、それにタレスが話してますねえ……

はあく炎帝さん、イライラしてますねー大丈夫？ ポンポン痛いのか？

「おぬしは我らの最高傑作。穢れた獣の血を薪とし、神をも燃やし尽くす炎なのだから」
はあくヒゲが不穏なこと言ってますね。大丈夫？ 計画ガバすぎない？

「それよりも、何故あの男を誘い出す必要がある？ アレもお前たちの計画に必要なのか？」

おゝ炎帝が突っ込みましたね。オラッ！ 炎帝様がご下問されたんだ。はよ答えんかい！

「……アレは肝心の炎が湿気った時の予備……神を殺す剣よ……」

制御できるとはとも思えないのですが……大丈夫？ 本当にガバすぎない？

捕らぬ狸の皮算用を見ててもしやーなしなので、ちやつちやと封じられた森に向かい
ましようねー

待つててね！ ジェラルドさん！ いま未来の婿殿が行きますゾ

あーソロンとモニカこと、クロニエが御出迎えですねー

「キヤハハハ！ ホントに一人で来てる〜 なにアンタって友達いないわけ〜」

はあ……（クソデカため息）うん、殺すね。

「誠に一人で来おったか、感心なものじゃ」

なにこの上から目線？ あくはやく闇うごのヒヨロガリ共をぶち殺してー

「で・も♪ アンタの相手をするのはくコイツよ！」

魔法陣の中から、ジェラルドさんが出てきましたね。うん、もう嫌な予感しかしませ
んわ

「ジェラルドさん！ 無事だったんですね！」

いや明らかに無事ちゃうやろ……あーもう、ロビンも不用心に近づかないの

「ロビン……駄目だっ！……近づくんじゃねえ！ ゲッアアア！」

ジェラルドさん魔物化……とことん心を折りに来ますねえ……

このステージは色々とやり辛いんですよねえ……まず一つに騎士団が配備不可（一人で来いて言つてたから仕方ないね）

そして二つ目に……

「キャハハハ！ 自分の仲間を殺そうとしてるく」

「ケモノさんて、ホント節操が無いのねく」

「仲間を殺す気分てどんな感じくキャハハハ！」

などなどクロニエが時々煽ってくるんですよ。いやくウザいですねく後で惨たらしく殺してあげましょう。

ハイ、そろそろ戦闘の方が終わりそうですね。

「ジェラルドさん……」

「……最期に世話かけちゃまったなあ……」

覚醒イベントとはいえ、これはキツイ……拙者の心もうボロボロですよ……

そしてまたムービー……しかしムービーだらけだなこのDLC

「キャハハハ！ ホントに仲間を殺しちゃった〜 そんなアンタにご褒美をあげる♪」

そう言うと、ジェラルドの遺体から瘴気が溢れ出し、ロピンを包む。手で払いのけようとするも瘴気は更にまとわりつく。

「それは、ザラスの禁呪よ……虚ろな闇を彷徨い、その身を朽ちさせるがいい」

「そしておぬしの朽ちた身体は、儂らが有効に使ってやろう……ではさらばだ、獣よ」

闇だ……もう何時間たった……？ いや何日か？ それとも数分なのかももうわから

ない……

……殺せ……

身体感覚も無くなってきた……頭もぼんやりとしてきた……ジェラルドさんの仇も討てない……

……虫けらを殺せ……

俺たちが勝ったんだ。今までずっと、お前がそばにいてくれたから

……誰？……でもとても懐かしい声だ……

お前のせいじゃない、お前だけでも逃げろ……

……ああそうだ、僕が彼を、■■■■を殺したんだ……

……僕が■■■■だから殺した……ああ……おもいだしてしまった……

まあいいじゃねえか？ 記憶喪失だろうと、お前がこの傭兵団の軍師には変わらん

……ジェラルドさん……ごめんなさい……僕はあなたを……

……我を讃えよ……

君の料理は全部鋼の味がするな

記憶探し？ ヨシ！ 私も協力しよう。こう見えても落とし物を探すのは得意なん

だ。

そうだな……死がふたりを分かつまでというのはどうだろう？

……ベレス……君との誓いを果たせそうにない……僕は……

……我を讃えよ……我が名は……

『ギムレー』

「ねえ、ソロン、いつまで待てばいいの、あたし退屈なんだけど」

「タレス様が、もうじき来られる。それまで辛……」

その瞬間であった。ロビンを消し去った場所から、爆音と共に、邪なる光の柱が立つ
「な……なによ！ ヒイ!!」

「馬鹿な……こんな……」

そこに現れたのは、封じられた森を覆う程の巨躯……

三対の六枚翼を生やし、ムカデの様な胴体と複数の目がついた頭部、そして側頭部からは

二本の長い角をもつ怪物だった……

その怪物は二人の姿を視界に捕らえるや否や、天と地を引き裂かんばかりに吠える。

『ザラスの禁呪だったか？ 虫けら……中々の塩梅だったよ』

背後から声が聞こえ振り向くとそこに、自分達が闇に封じ込めたはずのロビンの姿があった。

「小僧……」

ソロンは気付く、アレはさつきまでの小僧では無い。アレは自分たちとも違う何かだ

と。

「だ……誰よ……アンタ……誰なのよー！」

ロビン^{ギムレー}が発する尋常ならざる。瘴気に当てられたクロニエが恐慌状態で叫ぶ

『我か？ 我はギムレー 破滅と絶望の竜なり……』

女神の神話が終わり、新たなる神話が顕現する。破滅と絶望に満ちた神話が……

新DLC【邪竜復活の章】 後編 その1

アガルタの民

ハイ、では続きをやっていきましょう。え、今回はこのDLCの本題である。

我らがギムレー様の復活までいきましたね。現在は出撃前ということで、念入りに準備いたしましょう。

ふむふむ。肝心のギムレー様のステータスはa1150に【ギムレーの紋章】は以前と変わらず。

個人スキルが【戦術指南】から【神の器】に変更されて効果は、自分のスキル発動率+30

特筆すべき兵種スキルは【邪竜の鱗】を受けるダメージ半減、魔法効果無効。無効は美味いですね

二つ目が【邪盾】技%の確率で発動、全攻撃のダメージ半減。大盾と聖盾を合わせた感じですね。

三つ目に【竜呪】自身の周囲3マスの敵の命中・回避-15。これは赤の呪いの強化

版かな？

うんうん、総評すると……これ覚醒のルナティックギムレーですね。紋章が有る分、更に質が悪くなってますが……

特に防御面が最高ですね。素の防御値が50で、そこに【邪竜の鱗】でダメ半減さらに八割の確率で【邪盾】が発動。

うん、これ攻撃通りませんね。というよりも、攻撃自体当たらないでしょうね。

(闇うごくさんカアイソウ……)

お次は装備の確認。サンダーソードに銀の剣……うん普通。あつても地味に錬成されてますね。

そして魔法は……トロンにダークスパイク、さらにデス。……ギムレー？ 射程5で威力は30……出たわね。最強魔法！（弾数3）

最後に騎士団ですね。まあギムレーの兵と言えば、屍兵。今作では【邪竜の眷属】という名前ですね。

効果は魔攻と耐魔が+10に計略が共鳴魔法：雷。うん優秀ですね。

ヨシ！ 準備万端！ 闇うごくサッカーしようぜ！ ボールはお前の頭な！

『さて……不快な虫けら共。覚悟はいいかい？ 僕が直々に引き裂いてあげるよ』

殺意フルMaxじゃないですか……クロニエもソロンも死ぬんだなーって、シミジミ
思いますよ。

それでは戦闘を開始していきますかね。map構成は、回復床に待機するギムレー様
(回復する必要ある?)を囲む形で兵が配備されていますね。

敵の構成は、謎の兵×10に魔獣×5それとクロニエ&ソロンの2人。この2匹はm
a p上段の回復床存在する場所に陣取ってますね。

では早速ですが、さくつと殺つちやいましょう♪

フォドラ大陸では、世界の裏側で暗躍する者たちがいる。その者たちの名は「アガル
タの民」

通称【闇に蠢く者】

かつてはダスカで政変を起こし、近年ではルミール村で実験と称して暴虐を働い
た。

だが因果は巡る。

現在彼らは、絶望の淵に居た。封じられた森という名の屠殺場に……

「は……早く！ こつちに魔獣を連れてきてくれ！ もうも……」

「やめろお！ く……来るなあ！ ぐうああ……」

ある兵は生きてままだま焼かれ、またある兵は心臓を素手で握り潰され絶命した。運が良
い者は即死出来たが、大半の者はもがき苦しみながら死んでいった。

戦いが始まって数分……もはやこれは戦闘と呼べるものではなく、一方的な虐殺と化
していた。

「し……信じられぬ。このような事が起きるとは……！」

「ソ……ソロン……どうするのよ!? な……何とかしなさいよ!!」

首領格の二人は、この余りの惨状に只々狼狽する。最後の魔獣も駆逐され、ギムレー
は二人を見定め呟く

『余りにも呆気ない……君たちは精々楽しませてくれよ』

ギムレーは何事も無かったように、悠然と近づくと、絶対的な死が二人に迫りつつあつ
た。

ハイ、戦闘もほぼ終了ですね。いやー解つてたとはいえ、酷い虐殺ですね♪ 拙者も
心が痛むでござるよ（ハナクソホジ）

後はこの2匹を殺れば、このステージは終了ですねつと……いやいやクロニエさん、
「来ないで……来ないでよお！」と言いつつあなたがこつちに突っ込んでますやん。

システムの都合上しようがないとはいえ、これは酷い……あつ死んだ。……ヨシ！
後はソロンだけだな！

「儂は、貴様が恐ろしい……恐ろしいなどという感情は、儂の中に無かった筈なのに……」

つまりギムレー様は、ソロンにとって初めての人の？　じゃあ初めてついでという事で、初めて死んでみようか？

まあ何の盛り上がりも無く、ソロンもワンパンで死亡。うーん、このワンパンマン……サクツと死んだ闇うごさん12匹に哀悼を示して、戦闘後イベントに向かいますよ
うね。

「がああああ!!」

封じられた森に獣の鳴き声が響き渡る。……否これはソロンの断末魔だ。

『ふうん……君たちは、他の虫けらと違って、中々面白い体の構造をしているね』

ギムレーは手持ちの剣で器用に、ソロンの身体を腑分けしていく。ギムレー自身も気になつてはいたのだろう。

故に調べる。まずは背中を切開して、邪魔な肺を切り取る。そうすれば目的の臓器まで一直線だ。

『君たちの心臓に興味があるんだ』

目的の物は「心臓」この虫けらたちは、他の虫と違い身体に何か細工が施されている。そうギムレーは確信していた。

そして目的の心臓に手をかける。ギムレーはまるで、野菜を採るような気軽さで、ソロンの心臓を引き抜いた。

「ああああ……」

『……中々しづといね。やはりコレか』

ギムレーは、取り出した心臓をまじまじと観察する。

(やはり魔力の様なモノを感じる……だが微妙に違うか?)

この心臓の仕掛けをギムレーは解くことが出来ない。何故ならこれは、アガルタの民が造り出した人工的な心臓。

この人工物により、アガルタの民は常人ならざる魔力と膂力を獲得したのだった。

『解らないなら聞けばいいか……ねえ? 虫けら君。これはどうい……ああ流石に死んでしまったか』

心臓を抜き取られたらどの様な生命も死ぬ。この単純な事をギムレーは失念していた。

(……頑丈だったから、多少は無理がきくと思ったのだが、情けないな……仕方ないもう

一匹の方に聞くか)

理不尽なことを思い浮かべながら、生かしておいたもう一人の方に目を向ける。クロニエだ。

彼女は両足を斬り落とされ、苦痛に顔を歪めると共に、ギムレーに対する恐怖で精神が崩れる寸前だった。

『さて……もう一匹の虫けら君。君はこれが何なのか解るかい?』

そう言いクロニエに、すでに鼓動を終えた心臓見せつける。

「ヒグウー！ し、知らない!! あたし、な……何も知らないのよ!」

彼女の状態を鑑みれば、嘘はついていないと判断できる。それ故にギムレーは内心で舌打ちをする。

こちらの方の心臓を取り出せばよかったなど考えていると、クロニエが哀願を始める。

「お、お願い……助けてえ……あたし、まだ死にたくないよう……」

そう言いながらギムレーの足元に縋りつく、それがどれ程危険な事なのか、精神をつなぐ糸が切れた彼女にはもはや判別がつかない。

彼女にとって藁にも縋る思いなのだが、それを行うには相手が余りにも悪かった。

「お願い……何でもするからあ……」

『本当に何でもするんだね?』

この一言にクロニエは、一筋の光明を見た。自分はもしかしたら助かるかもしれないと。

そしてギムレーは、クロニエの頬に手を当て、耳元で囁く。

『じゃあ死んでくれないか?』

ギムレーの発した言葉に、目を見開き驚愕する。その声は余りにも日常的で、飲み物を取ってくれないか? と言わんばかりの物言いであった。

声を発する間もなく、クロニエは首を掴まれ、空高く投げ飛ばされてしまう。眼前に見えるのは、巨大な怪物。

その怪物は、口の周りに瘴気を溜め彼女を待ち受ける。それが彼女の目に映った。最後の光景であった。

ハイ、殺りましたね。ソロンは実験室のカエルに、クロニエは邪竜のプレスでジュツと消し炭に……

可愛そうですが……仕方ないネ! それにしても、ソロンさあ、「実験台など誰でも良

かった」

とか抜かしてたけど、自分が解剖用のカエルになったのは何故だい？

まあこれぐらいは、煽っても良いでしょう。こういうのも含めての因果応報なので
す。

最後にクロニエちゃん、クツソ情けなく命乞いして、助かったかなー？ と安心した
矢先に

首根っこ掴まれて、訳も分からず消し炭に……

苦痛が無い分、クロニエちゃんの方が、マシですかね。（両足切断から目を背けて）

それでは、区切りも良いので、本日はここまでに致しましょう。お疲れさまでした〜

新DLC【邪竜復活の章】 後編 その2

解放王

フォドラ大陸南東部の地下に秘密の都市がある。その名は「シャンバラ」

現在そこは、混沌に包まれていた。理由は突如として、現れた新たな脅威。ギムレーの存在である。

「まさか……これ程とは……」

獣の眷属を餌にして、興味深い実験体捕獲の為に、ソロンとクロニエを派遣した。これまでは良い

だが、この惨状は何だ？ 封じられた森から届く映像に、持ち前の青い顔を更に青くした。

画面に映るは『屍山血河』アガルタの精兵が、屈強な魔獣が、あの怪物に為す術もなく死んでいく

最早この場を支配するのは、ギムレーと名乗る怪物に対する。恐怖だけであった。

「クロニエは兎も角として、ソロンは優秀な魔導士だった筈だ。なのに何故このような

……」

「そんなことはどうでもいい！ まずは、あの男を如何するかだ！」

「だがそれ以上に問題なのが、あの巨大な怪物だ！ あんなモノを如何すればいいのだ！」

「まさかあの怪物は、伝承にある【竜】なのか……？」

各々が好き勝手に議論を開始する。それはまるで、ギムレーに対する恐怖を払拭するようだった。

「静まれ」

場内に静かだが、威厳に満ちた声が響く、タレスだ。彼は全員に、そして自分に言い聞かせる様に話を続けた。

「まずは犠牲になった。同胞に哀悼を……」

「そして諸君らが、心配しているあの怪物に対しては、【アグニ^{光の杭}】を使う」

「アグニ^{光の杭}」という言葉に、周囲がざわつく。

「し、しかしタレス様……封じられた森は、あの『獣たちの領域』アグニ^{光の杭}は使えぬのでは？」

副首領格のミュソンが異議を唱えるも、タレスは自分の主張を譲らない。

「おぬしの意見は至極当然。故に秘策を用いて、獣の領域から引き離す」

そう言い、ある人物を呼び込む。

「オデッセ。アレの起動準備を致せ」

「……承知致しました」

オデッセと呼ばれた人物は、足早にその場を離れる。

「……人の世を救済するため、我々は決して負けられぬのだ……」

そう呟き、タレスは無意識に手を握りしめる。あの怪物を仕留めねば、救済は実現しない。

故に目覚めさせるのだ。 “解放王ネメシス” を

ハイ、今日も今日とて、初めて行きましよう。え、前は、ギムレー様の蹂躞回でしたね。

そして、先ほどの導入イベントでも有りましたように、今回のお相手は解放王ネメシスです。

聞うござんも、本気出してきましたね。光の杭にネメシスの二段構えですから、如何に彼らが本気か解りますね（ギムレー様相手に舐めプ出来んしな）

それではゲームを進行していきますかね

封じられた森に爆音が響く……そこではまだ戦いが続いていた。

「そっちに行つたぞ！ 急いで追いつめ！」

魔獣五匹が、たった一人の為に導入される。過剰戦力と思われるかもしれないが、然らぬに非ず。

現に追われている方の男は、余裕の為か、笑みすら浮かべている。彼は振り向き、魔法を唱える。

『トロン』

雷撃の魔法を唱え、討ち漏らしも無く魔獣を焼き殺していく。

（こつちを何処かに誘導している？ 面白い乗ってやろう）

敵の意図を読み取り、ギムレーは敢えてそれに乗ることにした。故に鬼ごっこを続ける。

（それにしても、煩わしい！）

ギムレーは内心で舌打ちする。上空で翼竜型の魔獣が、巨大な怪物に群がっているからだ。

ブレスで数匹まとめて殺していくも、翼竜は特攻紛いの攻撃を仕掛け、怪物の気を引

く。

そうして合間にも、魔獣は更に数を増やし、ギムレーを追い立てる。

(確かこの先は、森が開けていたな)

恐らくその場所が、誘導先なのだろう。この鬼ごっこも終わりかと考え、先に進む。

『へえ。面白い物を持ってきたね』

誘導された先に、鎮座するは鋼鉄の人形。その名は「タイタニス」

人形はギムレーを視認すると、巨大な剣を手に取り、巨体に似合わぬ速さで近づき、さらに後方から魔獣が迫りつつあった。それでもギムレーは啞う。

『本当に飽きさせないね。こんな人形初めて見たよ』

まるで子供が、新しい玩具を見つけた様に啞う。だからこそ思うのだ。簡単に壊れてくるなよと。

ギムレーは、後方から迫りくる魔獣を、振り向きもせず魔法で塵殺すると。改めてタイタニスを見据える。しかし人形は思いがけない行動をとった。

『なに!?!』

その人形は、己の武器を捨て、ギムレーをその巨体で押さえつける。

「捕らえたぞ! 急ぎ転移の準備を!」

黒服の魔導士数人が、ギムレーを囲み魔法陣を組むも、その顔に苦痛の表情を浮かべ

る。

それもそのはずだ。彼らとギムレーでは、魔力の質と量が違い過ぎる。だが、それも彼らは諦めない。諦めたその時こそ、人の世が終わるのだから……

頭痛が酷い、心臓もまるで早鐘の様に鼓動する。この化物を拘束するだけで、命が削れる。自分たちはここで死ぬのだろう、だがそれでも。

「我々は、人の世の実現の為に、諦める訳にいかぬのだ!!」
彼らの願いは届く……自らの命を代償として。

ハイ、勇敢な闘うごさんに敬礼。えー我らがギムレー様は、珍しい玩具に夢中になつてしまい、不覚にも敵の魔の手に落ちてしまった訳ですが……これも計算の内でしょう
(震え声)

ま、まあギムレー様を疑うなんて、とんでもない事なので、今回のmapを説明しちやいましょう。

場所は驚獅子戦で、有名なグロンダース平原。そして敵は、解放王ネメシスwith十傑ですね。

数としては、古代兵含めて三十体、闘うごさんが十体、ギムレー様が一体……うーん、

この

さらに厄介なのが、ターン制限が有りまして、12ターン以内にネメシスを殺さなければ、ゲームオーバーになってしまうのですよ。

まあでも、今回は驚獅子戦りスペクトの為か、三つ巴戦なので、十傑と闘うごを争わして、ネメシスに突っ込むというのもアリですね。このステージでは、翠風の時みだけに、十傑を先に倒さねばいけないという事は無いので、そこだけは安心です。

それとある条件を整えると、イイ事が有るらしいので、今回はそれを狙っていきますね。

では一通り説明もできたので、始めていきましょう。

おおい、その山賊崩れく野球しようぜくホームベースはお前の顔な！

ギムレーは、自分を押さえつけていた。人形を破壊し、周囲を見渡すと、ひとり呟く。『……此処は、グロンダーズ平原か……随分と飛ばしてくれたものだ』

月明かりが、小高い丘を照らす。周囲に気配はあれども、姿が見当たらない。

(数は十匹程か、何とも拍子抜けだな)

あれ程大掛かりに、誘導した結果がコレだと言うなら、期待外れもいいところだ。

(何匹か捕まえて、巣穴を探れ……)

思考が中断される。気配が増えていく、十、二十、三十、とギムレーを囲む様に数が増えていた。

そして最後に、感じた気配は、別格と違ってよかった。

「セイロス……!」

その存在は、ギムレーを視認するや否や、獣染みた早さで近づき、異質な形の剣で斬りかかる。

『クツ……これは天帝の剣?! 味な真似を!』

突然の奇襲に、防戦を余儀無くされる。剣で、一合、二合と打ち合うも、先にギムレーの剣が、音を上げ始めた。

(ただの贋作ではないのか?)

これ以上の打ち合いは、危険と判断して、距離を取るため、魔法でけん制して、後方に下がる。

だがその様子を見て、ソレは笑った。まるで弱者を嘲る様に、ギムレーを嘲笑する。

『貴様ツ……!』

見下した? 自分を? 虫けら風情が? 様々な言葉が脳裏に走る。

「我ガ名ハ、ネメシス。セイロスヲ殺シ、再ビ世界ヲ、我ガ手ニ、邪魔ヲスルナラ殺ス」

ネメシス？ 古代の解放王？ だがそんな事はどうでもいい、まるで自分を路傍の石の様に捉えている。この無礼者に死を与えなければ……

『ネメシスと言ったね……喜べ、貴様は我が直々に殺す。そして魂すら食い潰してあげるよ』

ギムレーは初めて、この世界で敵を認識する。抑えきれない憤激を持って、ネメシスと対峙した。

「タレス様、標的が餌に食いつきました」

部下の一人が、そう告げる。だがそれでも油断は出来ない……故に「二本目の矢」を放つのだ。

「……まずは重畳。では【アグニ】の発射準備に取り掛かれ」

「で、ですが、タレス様、あの怪物に対して、ネメシスは優位を保っています。【アグニ】を使わずとも、勝利は固いかと」

「おぬし、アレを見て、まだ同じことを言えるか？」

そこに写されたのは、十傑と称される木偶人形が、アガルタの同胞を襲う映像だった。

「……怪物を倒せても、後に残るのは、制御出来ぬ獣では話にならぬ」

そうだ我々は、神も、獣も駆逐した。アガルタの民による。『人の世』の再興なのだ。制御できぬネメシスなど、あの怪物を殺せるならば、使い捨てにしてもかまわん。

そう思い、タレスは画面に顔を向ける。そこには、獣の……いや怪物同士の闘争があった。

月夜のグロンダーズ平原。現在そこでは、闘争が繰り広げられていた。

片方は、千年前に預言者セイロスに討たれた『解放王ネメシス』。そしてもう片方は、異界の聖王に封印された『邪竜ギムレー』。この決して、出会わないであろう両者は、グロンダーズ平原を駆ける。血の航跡を描きながら……

「ドウシタ？ 逃ゲテバカリデハ、愉シメヌゾ」

攻防はネメシス優位に進んでいた。執拗に追撃するネメシスと、それを躲し続けるギムレーという様相を呈していた。

『……………』

「ひい!? 来るな!!」

彼らの鬼ごっこ途中に居た。憐れな犠牲者は、両者に邪魔だと言わんばかりに轢殺されていく。

「チヨコマカト！ イイ加減ニ、碎ケヨ！」

何度かの剣戟の後、遂にギムレーの剣が碎け散る。それを見たネメシスは、己の勝利を確信した。

「フン、モハヤ逃ゲラレヌゾ。弱者ヨ」

『……逃げた？ 弱者？』

ギムレーの眩きも、今のネメシスには負け惜しみにしか聞こえない。それによく、この男の首を落とせる。このセイロスに、似ても似つかないものの、同じような不快感を醸し出す。こいつを引き裂きたい、そして内臓を引きずり出して、惨たらしく殺してやろう。そう考え、ネメシスは無意識に舌なめずりをする。

『間抜けめ、貴様の周りを見るがいい』

「ナニ？ ナンダコレハ!？」

そこには、両者を囲む様に、血で描かれた巨大な魔法陣があった。

『……我が逃げていた？ 本当にそう思っているのであれば、頭に藁が詰まっているのだな』

『幸い触媒が、そこらに転がっていたからね。術式を組むには、そう困らなかつたよ』
ギムレーは嗤う。まるで子供がいたずらを成功したように嗤う。

「貴様ア!!」

飛び掛かるがもう遅い、ネメシスが勝利を確信した時、既にギムレーの勝利が、確定していたのだから……

『もう遅い！ 滅しろネメシス！』

アガルタの兵を触媒とした魔法陣が光を帯びる。その瞬間であった。質量を持った闇の雷光がネメシスに降りかかる。その魔法の名は「ゲートティア」ソレは有効範囲にいたモノを容赦無く飲み込む。アガルタの兵も、魔獣も、十傑も等しく闇の光に消えていった。

光が消え、グロンダーズ平原を月夜が照らす。そこにあるのは死屍累々……だがそこに悠然と佇む者がいた。ソレは、何かを見下ろし、ひとり呟く。

『無様だな。ネメシス』

見下ろしていた物体は、胸から上だけを残り、今にも息絶えそうな、ネメシスであった。

「セイ……口」

何事かを呻くも、ギムレーはネメシスの頭を踏み潰す。まるで虫けらを踏み潰すように、繰り返し何度も踏み、土の肥やしにする。

『もういいかな？ さて君達も、そこで観るのも、飽きてきたのでは、ないのかな？』
ギムレーは虚空に問い掛ける。その行為は正に、痴人のソレであるが、その行為を理
解出来る者にとっては、悪魔の問いかけに等しかった。

ハイ、ネメシスを無事に討伐できました。くうく疲れましたー【ゲートティア】解禁の
条件が、一定数の闇うごの撃破とか……

ネメシスに追われながら、達成するのは、骨を折りましたねくそれでは【ゲートティア】
の性能を見て本日はこれまでにしましょう。

【ゲートティア】威力15、射程は3く10、着弾点から範囲5マスにもダメージ……スパ
○ボのMAP兵器じゃないんだからさあ……

新DLC【邪竜復活の章】 後編 その3

邪竜ギムレー

ハイ、始めました。え〜今回が、最終回という事で、張り切っていききたいと思いません。

前回は、古代のイキリ山賊を、成敗したところでしたね。今回は、皆様お待ちかねの〜シャンバラ攻略。または、不快なヒゲ親父の首を振り切る作業ですね〜

ヒゲ野郎をぶち殺せば。晴れてエンディング……それじゃあ。サクと殺っちゃいましょう♪

「……………」

秘密都市シャンバラ。そこは重苦しい雰囲気、包まれていた。

映像に映るは、大虐殺。アガルタの民が、十傑が、そして解放王ネメシスまでもが……

「こんな筈では……」

そう呻くのも、無理はない。もはや当初の計画は破綻し、あの怪物を止める術はもう無い。

誰もが、口を噤む中、首領のタレスが、言葉を漏らす。

「……撃て」

「はっ。」

タレスの言葉に、部下の一人が、間の抜けた返事を返す。

「撃てと言っているのだ！ アグニを！ あの獣に!!」

最早そこに、常に物事に泰然と構える。アガルタの首領の姿はなく、目の前の恐怖を払拭したいだけの老人の姿があった。

女神が降臨する前の時代。ソレは大国間の牽制に使われ、そしてソレが一たび使用されれば、街も人も平等に、消し去っていった。故に女神の時代に、ソレは禁忌の遺物として、封印されたはずだった。

シャンバラの魔力炉が稼働する。心臓が血液を循環させる様に、膨大な魔力がシャンバラに充満する。

「……タレス様。準備整いました」

副首領のミュソンがそう告げる。だが苛立ちを抑えきれないタレスは、不快そうに手を払い、先に進めよと指示する。

天の頂に存在する。古の時代に打ち捨てられた“遺物”が息を吹き返す。ソレの名は“大陸間弾道ミサイル”かつて、アリの地を焼いたソレは、ただ一人を滅ぼす為に放たれた。

『魔力の揺らぎ……？ 何かが来る……』

ソレらは、まるで流星の様に、夜空を切り裂く、ただソレらと流星の違いは、流星は夜空を輝かせ、役目を終えると天の頂の中に溶けて消える。

だが、ソレらは違う……天の頂に存在する“人工物”戦略衛星から吐き出され、地上に“神の一撃”と称した。傲慢なる炎が今、顕在する。

『ガアアア！』

何だこれは……？ 熱い……熱い！ 身体が……焼け落ちる！ 虫けら共！ 我に何をした!!?

たまらずに竜体を呼び出し、衝撃に備える。

……来た！ あの杭か!? 駄目だ…避けきれない!

ギムレーの竜体に、2発目が着弾する。

『グウウウ……!』

実体で受けるより、遥かにマシとはいえ、この忌々しい杭を早く何とかせねば、こちらが持たないと、判断したギムレーは、これを放つ者を探す。

(有り得るとしたら、先ほど感じた。魔力の揺らぎ……)

思案中にも、杭は降り注いでいる。3発目が着弾し、ギムレーは苦悶の表情を浮かべた。

画面に食い入る様に、見つめる者たちがいた。アガルタの民だ。

アグニがギムレーの身体に、突き刺さる度に歓声が起こる。喜ぶのも、むべもない。

アガルタの精兵に魔獣。更には切り札として投入した。解放王ネメシスまでもが、あの怪物に為す術なく、殺された事実を少しでも、和らげたいのだ。

ギムレーに6発目のアグニが突き刺さると、更に歓声上がる。だが、その喧騒に加

わからない者もいる。タレスだ。

（何だ……この違和感は？ 我々は確かに奴を追い詰めているはずだ……なのに何故!?）

周囲の喧騒とは裏腹に、タレスの焦燥感は募り続けた。

画面に目を向けると、そこにはアグニの直撃を受け続けている怪物の姿が映る。

（そうだ！ 勝っているのは我々だ！ 何を恐れて……）

思考が中断され、口を開けた怪物と目が合う。

その瞬間。タレス以下、アガルタの民に強烈な光と爆音が襲う。

ハイ、ギムレー様に有効打を与えて有頂天になってる。アガルタの民共に、調子に乗るなど言わんばかりに、射程を無視した。渾身の邪竜のプレス……

うん、これシャンバラ消滅したんじゃないかな？ 明らかにフルパワーのプレスが直

撃ってますしね。ヨシっ！ これでアガルタの糞虫達も無事成仏したことですし、フォドラの未来は明るいですね！

さあロードが終われば、タレスさんとご対面ですよ！ ワクワクしますねえ〜

画面に映るは、アガルタの民の地下都市「シャンバラ」そして、中央に位置するのは幹部たちが集う司令部。だがそこはすでに、幾多の瓦礫と倒壊に巻き込まれた。憐れな犠牲者たちの死体で満載であった。

これらの惨劇は、天変地異が引き起こした訳ではなく、また人が引き起こしたものでもない。

邪竜ギムレー

異界からフォドラに渡った。異形の怪物。かのモノが放った真の「神の一撃」その災厄をもつてして、シャンバラは見るも無残に壊滅した。

その一撃は正に「震天動地」グロンダース平原から放たれた光は、遠く「レスタ―諸侯同盟」ゴネリル領南部を焼き払った。

崩壊の中、幸か不幸か、生き残った者もいた。タレスだ。

「何故だ……何故こんな……正しき民である。我々が……」

いくら自問自答しようと答えは出ない。ただ解る事は、彼らは再び敗北したという事だ。一度目はナバテアの獣共に、そして二度目は、突如として現れた規格外の化物によつて。

もはや周囲に有るものは、瓦礫と死体の山、その中には自身の腹心である。ミュソンも含まれていた。

この事実を以てして、タレスの脳裏に一つの言葉が浮かぶ。

絶望

「タレス様！ 何処です！ 何処におられるのですか！」

若い兵が、崩壊した司令部に駆け込んでくる。

「此処だ……足が潰れて、身動きが取れぬ。早く手を貸せ」

「嗚呼……お勞しや……さあ急ぎ某に御掴まり下され、タレス様がご無事であれば、いくらでも立て直しが出来ます！」

その若者は、この絶望的な状況下でも、お道化たようにタレスに奮起を促す。

「お主、名は？」

「マニと申します」

（中々に気骨がある……まだ希望はあるという事か……）

「ではマニよ、足の治療を頼む。そして現在の状況を掻い摘んで説明してくれ」

怪我をした足に応急処置を施す途中、マニはタレスに状況を説明する。

「ははっ！ 敵の攻撃を受けシャンバラの魔力炉は破損。復旧に力を注ぎましたが、2時間前に完全に停止いたしました。現在は非常用のE-K259通路に、人員と物資を集積しております。タレス様が合流次第、脱出する予定です」

躊躇無く脱出を唱えた。

（意識を失って数時間か……そして魔力炉の停止……もはやシャンバラは完全に終わるか……）

「そうか……組織の再建には、長い時が必要だな」

そう呟き、鋭利な頭脳を回転させる。

（もし我らが、弱体化したことを、エーテルガルト小娘とあの若造ヒューベルトが嗅ぎ取ったなら、手切れは必定……何としてでもこの事は秘さねばならぬ……いや、いつその事怪物退治を名目として、関係を密に出来るかもしれん。それに上手くすれば、コルネリアを通じて王国を掌握も出来るか？）

「タレス様？」

「……少々考えておった。暫しの間は王国に潜伏だ。そこなら協力者とアランダルの領地が近い」

「たればを考えても仕方がない。名残惜しいが、今はシャンバラを脱出するのが先決だ。」

道すがらの間。タレスは様々な事を思い浮かべた。

繁栄を謳歌する我らに、突如として襲い掛かったナバテアの者共……そして我ら人類は敗北し地上世界を追われた。苦難の時代にしてアガルタの始まり。

地上世界で大手を振って歩くナバテア人……そして卑しくも人の尊厳を捨て、ナバテアの家畜として生きることを選んだ獣共……

地上には悪が繁栄し、最後の善である我らは地下深く……この世界は全てがあべこべ。

だが転機は訪れる。薄汚い盗賊であったネメシスを使い。親玉のソティスの遺骸から造り出した【天帝の剣】そして副産物としての【紋章】

戦力を整えた我らは、ザナドを焼き払うことに成功……正に善が悪に勝利した瞬間だった……

だがっ！ あの女！ 憎きセイロス！ 獸共を喰し、アドラストア帝国を建国すると地上世界の守護者を僭称し、ネメシスを討つと。地上をセイロス教なる邪教で支配した忌々しい毒婦！

そして我らは地下に逆戻り……地上世界には巨大な帝国と愚民を製造する邪教……

我らは地上を解放する為、行動を起こす。まずはファーガスの領主。ルーグを喰し、帝国を分断すると、然るに我らの拠点……シャンバラの安定化の為、レスター地方を王国から独立させた……

そして憎き、あの毒婦の血を受け継ぐフレスベルグを使い。神を屠る炎である【炎帝】を造り出した……これで今度こそ、憎きナバテアを滅ぼし、地上世界を取り戻せる！

なのに何故だ!! 何故、お前は儂の、アガルタの邪魔をする!! ギムレー!!

「着きましたぞ！ この先に仲間たちが居ます！ さあ行きましょう！」

思考が中断される。そうだ。まだまだ我らが生きている限り、【希望】は不滅なのだ。

「…………え…………？」

そこにあるモノは死体。死体。死体。死体。死体の山。

頭を砕かれたモノや、胴体を真っ二つにされたモノ。更には木端微塵になったのか、手足が周囲に散りばめられていた。

余りの光景とそれに付属する臭気にやられたマニは思わず、顔を背ける。

だがその瞬間

「がっあつ!!」

何者かがマニの首を掴む。

そしてその衝撃で、マニから振り落とされたタレスは「絶望」を見る。

「ギ……ギムレー……」

『マタ、逢ったね。虫ケラ……スグに僕が引き裂いてアゲルよ……』

こんなだったか？ こんな凶悪だったか？ この男は？

目は血に染まったように紅く染まり……右腕は人の形ではなく、異形と化している。

(あの腕は正に【竜】……)

ギムレーはその異形の腕でマニを締め上げる。

そして奇妙な事が起こった。締め上げられているマニが膨らみ始めたのである。

「ぶぎゆうう……」

屠殺された豚の様な言葉を発し、限界まで膨らんだ風船の如く、マニの身体は弾けた。

「あ……ああ……」

タレスは、マニの血液、臓物を身体に浴びるも、放心状態から抜け出せない。

それもその筈だ。たった今、目の前で「希望」が潰えたのだ。だがそれで終わりではない。

タレスに、逃れられない【破滅】が降りかかる。かつて人類を襲った【破滅】の様
……

『漸くだ……我の中の僕がノゾンダ事を……ガア嗚呼ああ!!』

ギムレーは理性を無くしたように、雄叫びを上げると、全力でタレスの頭蓋に拳を叩き込んだ。

自らの独善の為、様々な人々の人生を狂わせた者は、壁のシミとなり、その生涯を終えた。

その日、フォドラ大陸の裏で暗躍した。闇の勢力は誰にも知られずに、突如として現れた【邪竜】により呆気なく滅んだ。

『はあはあ……カラダが熱い……思考がまとまらない……』

青年は死体の山で佇む。そして思う。自分は何なのかを……

『我はギムレー……』『僕はロビン……』

「親友の■■■■ムを殺した』『忌々しい最愛の妻である。チ■■■■を殺し、ナ■■■■の血脈を絶つた』

『だが我は滅ぼされた』『愛娘と親友の娘は僕の望みを叶えてくれた』

「だけど僕は」「我は存在する』

『「人々の願いを叶える為に……」』

一二つの思考が頭の中で氾濫する。そして青年は絞り出すように呟く。

「ベレス……君に逢いたいよ……』

弧月の節 ガルグⅡマク大修道院 近郊

この日、フォドラでは、歴史的な大事件が起きた。

【アドラステア帝国、セイロス聖教会に宣戦布告】

この一報に周辺住民は、大混乱。急ぎ避難を開始し、街道は避難民の列が出来ていた。だがそこに避難民とは逆に、ガルグⅡマク大修道院に向かう者がいた。

「おいつ！ 兄ちゃん！ そっちはガルグⅡマクの方だぞ！」

中年の男は親切心から、青年に声をかける。

「帝国軍が攻めて来るんだ。悪いことは言わねえ。俺達と避難しようや」
しかしその青年は俯き、小声で「逢わなければ」と繰り返すだけだった。
それに業を煮やした男は、青年の腕を掴み、引き留めようとするも。

「うっ！」

男はその姿を確認し、絶句する。

目は血のように紅く、右腕は異形。何より青年の皮膚には鱗の様な物に覆われていた。

青年は男の手を振り払うと、ガルグⅡマク大修道院に歩を進めた。

「何なんだよ……アレは……」

考えても答えは出ない。男は頭を振るい避難するために街道に戻った。

ガルグⅡマク大修道院に伝令が走る。小さな朗報を届けるために。

「ベレス！ 大変だ！ ロビンさんが帰ってきた！ 生きてたんだよ！」

伝令は喜びに満ちた声色で、ベレスにロビンの生還を伝える。

「ロビンが……？ 彼は今どこに？」

「正門の前に居る！ 早く会いに行つて来な！」

ベレスは神妙な顔で頷き、最愛の人に逢うために駆けだした。

彼女は駆けながら、様々な事を思い浮かべる。

ジェラルドが行方不明の為、実質解散状態の傭兵団の今後

そして自身に起きた異変

だがそれらも些細な事だ。今は兎に角、「彼に逢いたい」今はそれが彼女にとって全てなのだ。

大修道院正門前、そこは異様な光景に包まれていた。

一人の青年を兵士が武器を携え、取り囲んでいたからだ。

だがこれには訳がある。簡単な話。帰ってくる時期が悪い。これに尽きた。

さらに姿を消した経緯も悪い。ジェラルドが拉致され、それに続く形でロビンも行方不明。

これでは怪しさが倍増。この扱いても当然なのだ。
そして遂にこの均衡を破る者が現れた。ベレスである。

「ロビン！」

彼女はロビンの姿を捉えると、一目散に駆け寄り。ロビンの身体を抱きとめる。

「ベレス……」

「ロビン……帰って来てくれて良かった。君がいない間、私は……」

「ごめんよ……ジェラルドさんを助けられなかった……ベレス……ごめんなさい……」

ジェラルドの死。これに衝撃を受けるも

「予感はしていた……でも君が無事でいてくれたから……」

彼女は悲しげに微笑み、抱擁を強める……これ以上自分の大切な人を失わない様に……

「それに私達は、あの日誓ったじゃないか【死がふたりを分かつまで】と……ロビン？」
何の反応も示さないロビンを訝しがり、ベレスは顔を覗き込むと……ロビンは呟く。

……それが君の願いだね。ベレス……

ガルグIIマク大修道院は陥落した。

この日から五年半の狂乱の時代を後の歴史家は、こう名付けた【黄昏の時代】と

1185年 レスター諸侯同盟領 デアドラ

「聖戦だ！ 戦える者は武器を取れ！ 恐れることはない、我らには主の加護がある！
最後の勝利を信じるのだ！」

酒場の外では教会の司教が、がなり声を上げ、兵士を募集している。だがそれに応じようとする者は少ない。皆誰もが疲れているのだ。

そしてそれを酒場で聞く者たちが居る。身分は様々、商人から傭兵などだ。

「はは！ 威勢が良いね、教会さんは」

男は酒瓶を片手に、司教の有難い言葉に不謹慎に耳を傾ける。

「オイ、笑い事じゃないぞ。同盟と教会が組んでなきや、ミルデイン大橋だつて危ない。あそこが落ちたら化物が大挙して同盟領に流れて来るんだぞ！」

それでも酔っぱらった商人は続ける。

「はっ！ これが笑わずにいられるか！ もうフォドラは終わりなんだよ！」

「おい声がでかいぞ……」

別の傭兵が商人を諫めるが、それでも商人は止まらない。

「王国はタルティーン平原で怪物の大軍と決戦して敗北。国王のデイミトリは行方不明」

「挙句、コルネリアとフラルダリウスは大喧嘩。コルネリアが死んで王国は死に体よ！」
「帝国はメリセウス要塞が突破されて、もう二月も帝都アンヴァルとは連絡がつかねえ」
「いいか？ 俺は適当な事を言ってる訳じゃないぞ。もう国として機能しているのは、
（一）同盟だけだ！」

一息に話すと商人は、酒を一気に飲み干し、力なく呟く。

「もう終わりなんだよ……」

その言葉に海千山千の商人。歴戦の勇士の傭兵も顔を上げることが出来ない。

暗く沈んだ。雰囲気の中、凜とした声が響く。

「失礼ですが、兵を募集していると聞きました。どちらに向かえばよろしいでしょうか？」

傭兵は面を食らいながらも、募集場所を教える。

「……その通りを出ると広場が見える。そこで教会が募集してるよ」

傭兵は何気なしに、自分が応対している相手を観察する。

猫っ毛気味の髪は青く、今のご時世にしては珍しく長く整っている。どこかの良い所のお嬢様なのか？

「あく悪いことは言わねえよ。お嬢ちゃん。やめとけやめとけ。もう無駄なんだよ」
商人がだらしなく少女に忠告するも

「いえっ！　これが私の使命ですから！」

少女はそう言うのと、踵を返し、緑髪の少女に声をかける。

「マーク、場所が分かりました。早速行きましょう」

「はいっ！　ルキナさん！」

そう言いと二人は酒場を後にした。

そして取り残された大人たちは、また静かに飲み直すのだった。少女たちの無事を祈って……

それは狂乱の時代が終わる。一月前の事であった。

ハイ、これにて闇うご滅殺√終了です。お疲れ様でしたー

えゝ最後は解り辛いですが、光の杭をボコボコ受けたギムレー様がバグっちゃう……
まあつまりは銀雪のレア様みたいになったという事です。

まあプレイ動画の感想としましては、リアルで何回か心折れたので、完走出来たのが嬉しかったです（小並感）

それではまたどこかで会いましょう。